

評価項目	評価指標	方策・手立て	各種アンケート					平均値	自己評価	外部評価	学校の自己評価分析	外部評価者意見
			児童	生徒	小学校保護者	中学校保護者	職員					
【知】  確かな学力を身に付けさせます。	◎ 基礎・基本の定着と活用する力を習得させます。	・児童生徒が、わかる、できる授業実践のための研究 ・小学部の複式解消や高学年の教科担任制への取組 ・研修等による教師の指導力向上 ・思考力、判断力、表現力を図る授業実践	3.5	3.5	3.5	3.7	2.9	3.42	3	##	○ 校内研究として、全教諭が研究授業を実施し、ICT機器を効果的に活用しながら授業改善に努めることができた。 ○ 本年度は5，6年の社会、理科を単学級での乗り入れ授業を実施した。今後系統的な学習をすることで教育効果を高められることが期待できる。 ○ 表現力育成のために、児童生徒に必要な資質・能力を各学年ごとにゴールイメージを定め、意識して指導を行っている。今後も継続していく必要がある。	○基礎基本の定着、家庭学習の習慣化は児童生徒にとってはとても大切なことである。今後もこれらについて研修を深められ、家庭をどのように取り込めるか研究実践をお願いします。 ○家庭学習の充実については、保護者・学校との共通理解を基本にして、特に児童について工夫が必要だと思います。
	◎ 家庭学習の充実を図ります。	・基礎・基本の力を高める課題の工夫 ・授業につながる課題や各自の課題解決のための家庭学習の工夫	2.9	3.1	2.7	2.6	2.6	2.78	3	3	○ 家庭学習の習慣が定着していない児童生徒も多く、学習する意義や目標を明確に持たせるようにし、保護者にも協力を得られるよう手立てを講じていく必要がある。 ○ 各教科の学習の仕方を具体的に指導するとともに、個別対応を強化するために、AIドリル等の活用を検討していく必要がある。	
	◎ 個に応じた指導や支援を行います。	・児童生徒の学習内容の定着度に応じた指導の充実 ・困り感のある児童生徒への支援の充実	3.6	3.6	3.2	3.4	3.1	3.38	3	4	○ 特別支援教育に関する共通理解を図り、個に応じた支援や指導について体制づくりの見直しを行い、組織的に対応するなどして、改善を図ることができた。	
	◎ 読書活動等を積極的にを行います。	・新聞への投稿や新聞を教材としたNIE活動の充実 ・朝の読書活動や相愛リーディングでの読み聞かせ活動の充実	3.2	3.5	3.4	3.3	3.1	3.30	3	4	○ 新聞への投稿やN I E活動など、積極的に取り組んでいる。 ○ 朝の読書の時間やたいよう号の活用など読書推進を図ることができた。	
【徳】  豊かな人間性を育てます。	◎ 道徳及び人権教育を充実させます。	・特別の教科道徳の授業内容の充実と授業実践の工夫 ・いのちの教育週間、人権週間の取組の実践			3.2	3.6	3.2	3.33	3	4	○ 道徳の時間の指導を充実させるとともに、日南市のレインボープランを各学級で実施したり、多様な性についての講演会を実施したりすることができた。	○人間性で言えば素直でよい子どもたちです。 ○キャリア教育及び相談体制づくりは生き生きと楽しく活動できる環境に見られそこにいる子どもたちから感じられます。
	◎ 小中学生生合で行う活動等を計画的に行います。	・学校行事や児童生徒会での小中連携活動の充実 ・清掃活動の小中縦割りでの実施と清掃の充実 ・ボランティア活動の推進	3.8	3.6	3.8	3.6	3.5	3.66	4	4	○ 運動会や潮風祭等の学校行事や愛のお便り運動やクリーン活動、ボランティア活動を小中合同で実施する中で、児童生徒にリーダーとしての自覚が芽生え、よい波及効果が見られるようになった。	
	◎ キャリア教育の充実を図ります。	・将来を見通した小中一貫のキャリア教育の実施 ・職場体験学習等の体験学習の充実 ・地域の良さや課題、生き方等を考える総合的な学習の時間の充実	3.5	3.8	3.1	3.3	3.3	3.40	3	4	○ 総合的な学習の時間で地域のよさや課題について具体的に学習を進め、その成果を潮風祭での発表につなげることができた。地域の人材から指導をいただく機会も多く、児童生徒のキャリア教育の充実につながっている。	
	◎ 教育相談体制の充実に努めます。	・児童生徒が相談しやすい環境づくり ・巡回相談員やSSW、SCとの連携	3.6	3.6	3.2	3.3	3.1	3.36	3	4	○ 児童生徒にアンケートを毎月実施し、悩みや不安の早期発見・解消に努め、いじめ・不登校対策委員会で共通理解を図ることができた。関係諸機関（S C、巡回相談員など）とも連携し、児童生徒及び保護者の悩み等の解消に努めることができた。	
【体】  自主的な健康づくりと安全教育を実践します。	◎ 健康教育と食に関する指導を推進します。	・性教育等の充実 ・保健衛生面での指導の充実 ・給食指導の充実 ・弁当の日の実施 ・食習慣の実態調査と個別指導	4.0	3.8	3.5	3.7	3.3	3.66	4	4	○ 日南市のレインボープランに沿って、性教育を各学年で実施することができた。 ○ 弁当の日の実施回数が減ってしまった。遠足以外の日にも計画的に実施し、食育を推進していく必要がある。	○人間として成長するためにとても大切なことです。健康と特に自己管理が自らできる児童生徒になることを願っております。 ○部員一人でやり遂げられたのは指導する先生、学校、生徒、保護者と一体となっていたからでしょう。 ○子どもたちの自己評価に向上が見られ、健康づくりに対する関心の表れを感じます。
	◎ 健康に対する自己管理能力を高めます。	・体力向上プランの実施と個人目標の達成 ・基本的生活習慣の定着のための指導 ・運動に親しませるための指導内容や方法の工夫 ・業間や昼休みの外遊び等による基礎体力向上の取組	3.8	3.8	3.4	3.0	3.0	3.40	3	4	○ 調査結果や児童生徒の会話からもゲームやスマートフォンの使用時間が長いことがうかがえる。望ましい生活習慣の育成のため保護者との連携がさらに必要である。 ○ 昼休みに小中学生が一緒に遊ぶ姿が見られるようになった。	
	◎ 部活動の効率的な実施を継続します。	・適度な休養と効果的な活動の工夫					3.3	3.30	3	4	○ リフレッシュデイ、家庭の日、週1回の休養日を確実に設定することができた。 ○ 部員が1人ではあるが、日々の活動の成果が出ている。 ○ 毎月安全点検を実施し、危険箇所については早期に対応することができた。	
	◎ 安心・安全な学校にします。	・子どもを主体とする防災学習と諸訓練の工夫と充実 ・校内点検に基づく施設などの改善 ・危機管理マニュアルの徹底	3.8	3.8	3.9	3.7	3.2	3.68	4	4	○ 地震や大雨等の経験から、児童生徒、職員に防災意識が高まり、防災バグの整備や避難経路、避難訓練計画の見直し等を行うことができた。	
【地域】  地域や保護者とともにある学校づくりを行います。	◎ 地域や保護者に信頼され開かれた学校づくりを行います。	・コミュニティスクールの実践 ・学校だより等による情報発信 ・学校評価の実施と評価の公開			3.4	3.6	3.2	3.40	3	4	○ 各学級の学級だよりや学校だより・ホームページ等により、学校の情報を定期的に発信することができた。 ○ 潮風祭や運動会だけでなく、オープンスクールや参観日を通して、保護者に限らず地域の方々にも学校の様子を見てもらう機会を設けることができた。	○少人数になればなるほど、人間力（対人関係）が重要だと考えます。開かれた学校として地域とのつながりを大切に、地域を巻き込む取組を今後もよりしくお願いいたします。 ○防災への危機管理体制は大変よい。 ○潮風祭で実演があり、とても上手で感激した。 ○地域人材の活用、子どもたちの活動への参加がうまく融合し、地域に根付いていることをうれしく思います。
	◎ 各関係機関等との連携を図ります。	・市教委や警察等との連携による危険箇所の把握と改善 ・火災や不審者などでの連携した危機管理 ・民生委員等のボランティア活動による児童の下校時の見守り活動	3.6	3.9	3.5	3.6	3.1	3.54	4	4	○学校と市教委、警察等合同での通学路の安全点検を実施できた。 ○日南警察署、消防署、民間ボランティア等と連携した避難訓練や不審者対応教室を計画的に実施できた。 ○登下校時の児童生徒の見守りや声掛けをさせていただいているのは大変ありがたい。	
	◎ 地域の各団体等との交流活動を推進します。	・地域での体験活動や交流活動の充実 ・保育所や特別支援学校等の交流学習の充実	3.8	3.5	3.6	3.3	3.6	3.56	4	4	○ いきいきふれあいサロンや花いっぱい運動等を通して、地域の方々と交流を図ることができた。また、保育所や特別支援学校とも交流を図ることができた。	
	◎ 地域の教育力を積極的に取り入れます。	・地域の人材を生かすための地域コーディネーターの活用 ・児童生徒の活動支援ボランティアの導入のための環境整備 ・ふるさと学習等での地域の人材の活用	3.8	3.8	3.4	3.6	3.2	3.56	4	4	○ 地域コーディネーターを通して、地域における各種連絡や調整に活用することができた。また、地域の人材を講師としてキャリア教育やえびずしづくり等に多くの協力をいただくことができた。	

1 本年度の取組について  
児童生徒の学力向上に向けて全教諭が研究授業に取り組み、授業改善を図ることができ、指導力の向上に努めた。いのちの教育や人権教育、道徳教育、教育相談体制を充実させたことや児童生徒が学校行事により積極的に参加するようになったこと等により、児童生徒が落ち着いた学校生活を送ることができるようになった。度重なる自然災害から身を守るために防災意識が高まったことで、これまでの危機管理マニュアルを見直すとともに、新たに防災バグの整備を進められたことは意義があった。また、様々な機会を捉えて地域人材や関係諸機関を活用することで、学習活動の充実やより専門的な立場から児童生徒及び教職員への支援の充実を図ることができた。

2 次年度への改善に向けて  
児童生徒の学力向上には教師の指導力の更なる向上と児童生徒の家庭学習の充実が不可欠である。児童生徒の家庭学習の習慣定着に向けて、児童生徒に学習する意義や目標を考えさせるとともに、学習習慣、生活習慣の定着に向け保護者による家庭での見届けの協力をお願いする。今年度導入されたAIドリルやオンライン教材等を効果的に活用するとともに、個に応じた支援をさらに充実させ、全体的な学力の向上につなげていく。また、安心安全で開かれた学校づくりのために、地域や関係諸機関とも今後も連携を深め、防災教育、キャリア教育のより一層の充実を図っていく。